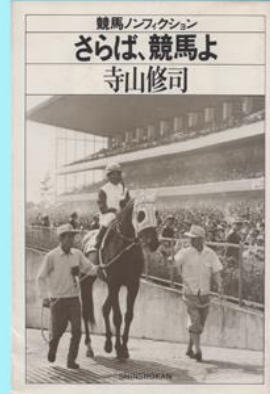
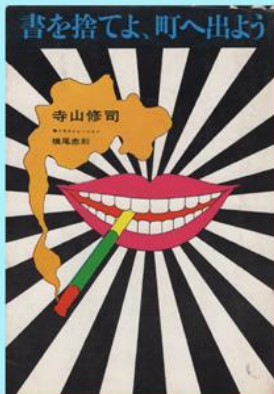


スポット企画展
生誕90年

寺山修司著作展

2025. 7/9 Wed. – 2025. 9/25 Thu.



弘前市立郷土文学館

【開館時間】 9:00 ～ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【観覧料】 一般 100 円、小・中学生 50 円

(弘前市内の 65 歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、
市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援パスポート持参の方は無料)

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 (追手門広場内)

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp



林檎の木ゆさぶりやまず逢いたきとき

句集『花粉航海』より

かくれんぼの鬼とかれざるまま老いて誰
をさがしにくる村祭

歌集『田園に死す』より

親の愛情、とりわけ母親の愛情という
ものはいつもかなしい。いつもかなしい
というのは、それがつねに「片恋」だか
らです。

『家出のすすめ』より

おとうとよ

人生は

汽車に似て^にいるね

さみしくなると

汽笛をならす

『かもめ』より

この世でいちばん遠い場所は自分自身
の心である

詩「海について」より

「人生は、どうせ一幕のお芝居なんだか
ら。あたしは、その中でできるだけいい
役を演じたいの。芝居の装置は世の中全
部、テーマはたとえ、祖国だろうと革命
だろうとそんなことは知っちゃあ、いな
いの。役者はただ、自分の役柄に化ける
だけ。これはお化け。化けて化けてここ
とんまで化けぬいて、お墓の中で一人で
拍手喝采を聞くんだ……」

戯曲「毛皮のマリー」より

「にんげんは、中途半端な死体として生
まれてきて、一生かかって完全な死体に
なるんだ」

映画シナリオ「さらば箱舟」より

スポット企画展 生誕90年

寺山修司 著作展

スポット企画展は、常設展・企画展に加え、
折々の話題や、新しく収蔵した資料などを随
時紹介する小規模企画展として、平成十一年
度より開催しているものです。

このたびは、「生誕九十年 寺山修司著作
展」をテーマに開催します。二〇二五年（令
和七年）に生誕九十年を迎える寺山修司（昭
和十年～昭和五十八年・弘前市）は、俳句・
短歌・詩・映画・演劇など多くのジャンルを
駆け抜け、四十七歳で世を去るまで常に前衛
であり続けました。本展は、寺山の多彩な著
作やそこに記された印象的なフレーズを展
示し、その魅力を紹介するものです。